

東京都写真美術館

年報 2024-25

Annual Report:

Tokyo Photographic Art Museum 2024-25

TOP MUSEUM

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



# 東京都写真美術館年報 2024 - 25

Annual Report: Tokyo Photographic Art Museum 2024 - 25



東京都写真美術館は、令和6年度は館の基本コンセプトである「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、センター的役割を担う存在感のある美術館」を目指し、作品収集・管理、上質な展覧会や上映に加え、館内外での関連イベント開催、ターゲットに合わせたSNSを活用した広報など、当館の魅力をさらに多くの方に訴求する取組を行ってまいりました。また、子どもから高齢者まで、障害の有無やルーツにかかわらず、どなたにも美術館での時間を楽しんでいただけるよう、段階的にアクセシビリティの向上に取り組んできました。

令和6年5月には、総来館者数900万人を突破し、令和7年1月には、総合開館から30周年を迎え、子どもから高齢の方まで、また、海外からのお越しのお客様でにぎわい、令和6年度は37万9千人超のお客様にご来館いただきました。

展覧会については、国内外の写真史・映像史における貴重な当館収蔵作品を様々な切り口で紹介する展示や、映像資料作品を活用して映像の歴史や仕組みを子どもたちにも分かりやすく紹介した展示の収蔵展、国内外で注目を集める作家の個展、将来性のある作家を発掘する新進作家展などの自主企画展、展覧会をバラエティ豊かにする誘致展を合わせて15本開催しました。令和6年度で17回目を迎えた映像とアートの国際的なフェスティバル「恵比寿映像祭」では、「Docs（ドックス）—これはイメージです—」を総合テーマとし、映像表現の原点である「ドキュメント／ドキュメンタリー」の再考を試みるべく、恵比寿近隣の文化施設と連携しながら多様なプログラムを展開しました。

当館の活動の基盤をなす作品収集においては、東京都からの受託事業に加え、当館の支援会員である企業の皆様からのご支援や作家のご寄贈などにより、写真史、映像史において、更なる発展に寄与する作品や、展覧会の成立に必要な不可欠な作品を厳選し、910点の作品を新たなコレクションとして加えることができました。

教育普及の分野では、多様な世代の多様な関心をもつ方々が美術館を楽しみ、学ぶことができる体験的プログラムを展開するパブリックプログラムや、小学校から大学、各種学校までの授業、教職員の方を対象としたスクールプログラムの他、誰でも暗室でプリント体験できるオープンワークショップを実施し、参加する方の写真、映像への理解促進に努めました。図書室においては、図書資料の充実を図り、配架・閲覧環境を整えることで、利用される方の写真・映像への理解へ繋げました。

また、令和7年に東京でデフリンピックが開催されることから、手話対応の充実、鑑賞サポートの実施、補助ツール等の整備を行い、様々な方のアクセシビリティの向上に努めました。

東京都写真美術館は、写真・映像の総合美術館として、国内外の優れた魅力ある作品による展覧会の開催を軸に、写真・映像文化の振興と発展に寄与するとともに、地域の多様な主体と連携、協力し、都立文化施設として豊かな都民生活や活気ある東京の実現に努めてまいります。

**令和6年度事業**

東京都写真美術館の運営	5
東京都写真美術館の事業内容	7
東京都写真美術館の戦略的な運営システム	8
展覧会事業	13
教育普及事業	23
社会共生の取り組み	36
作品資料収集／作品収集実績	39
令和6年度新収蔵作品の紹介	43
調査研究・普及活動（個人）	48
広報事業	51
保存科学研究室	59
図書室	61
地域連携事業	64
上映事業	68
支援会員	72
ミュージアム・ショップ／カフェ	76
数字で見る東京都写真美術館	77
美術館条例	82
施行規則	85
開館の経緯／組織図	87
フロアマップ／施設面積	88
建物概要／設備概要	89
利用案内	90

東京都写真美術館では、館のミッションを以下として、運営しています。

### 東京都写真美術館のミッション

**わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、  
センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。**

#### 〈過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館〉

貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子どもや若者達に積極的に文化発信を行います。

#### 〈質の高い写真・映像文化と出会う美術館〉

社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

#### 〈写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館〉

美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

#### 〈写真・映像文化の拠点として貢献する美術館〉

国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

#### 〈開かれた美術館〉

来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

## 1 世界有数の写真・映像コレクションの構築と、 世界への発信

### ○国際ネットワークの構築

世界の関係機関との信頼関係を築き、ネットワークを強化し、国際シンポジウムの開催、海外への企画展・収蔵展の巡回、共同企画、ワークショップ等の開催を促し、世界に向けて日本の写真・映像の魅力を伝え、相互交流を活発化させる。

### ○画像WEB公開など情報システムの充実

写真美術館の所蔵作品の画像WEB公開等の取組を強化し、都民をはじめ世界中の人々に広く発信する。

### ○情報発信力の強化

ホームページの刷新や広報誌、プレス等の従来型の活動に加え、海外メディア・ネットワークを広げ、美術館における複数言語対応など、国際化広報スキームを構築し、国際発信力を高める。多彩な手段による新たな発想の広報活動を展開し、アウトリーチを高めていく。

## 2 写真・映像の可能性に挑戦する新進作家の支援

### ○日本の次世代を代表する旬の作家の個展や新進作家展の開催

様々な価値観や世代が交流するきっかけとするため、一過性ではなく、持続可能な文化的事業として位置づけ、連続的に開催することによって、長期的な遺産となるよう展開する。また、作家が展覧会を契機に世界進出できるようなシステムの構築を目指す。

## 3 来館者につねに感動を与える美術館

### ○話題の国際展の開催

現在最も世界的に活躍しているアーティストの展覧会や19世紀の初期写真、世界が直面するテーマに関する国際展などを開催することにより、国際都市東京をアピールし、優れた写真・映像の鑑賞機会を提供する。

### ○上映事業の質向上

写真・映像の専門美術館ならではの映画館として、ラインナップを磨きさらに魅力を高めた上映事業とする。

## 4 来館者の立場に立った開かれた美術館

### ○地域との連携

地域のアートネットワークを構築するとともに、近隣施設と協同し、地域活性化に寄与する。

### ○あらゆる人が享受できる多彩なワークショップ、スクールプログラム等の学校との連携、ボランティアとの協働

すべての人のウェルビーイングに寄与するべく、多様な方がともに参加できるインクルーシブなプログラムを展開する。次世代を担う児童・生徒の可能性を引き出すと共に、子どもから上級者まで様々なニーズを充たす、より魅力的なプログラムを人々に提供する。

### ○支援会員制度の運営

企業・団体との協力をより強化する。

## 5 過去と現在、先端技術と芸術文化が融合する、 領域横断的なフェスティバルの実施

### ○「恵比寿映像祭」のバージョン・アップ

国際フェスティバル「恵比寿映像祭」の国際発信力に磨きをかけ、国内外の先端的なアーティストを招集すると共に、領域を横断した作品や過去の名作を取り上げ、展示、上映、ライブ・イベント、講演、トーク・セッションなどを複合的に実施する。映像分野における創造活動の活性化を図り、優れた映像表現を、過去から現在、未来へと継承し、異なるジャンルの対話を促す場とする。

恵比寿を訪れた様々な方が多様な興味を持つことができるフェスティバルとしての魅力向上。

## 6 未来に向けた文化の継承

### ○適切な作品収集、管理、保存による貴重な作品の次世代への継承

計画的な収集、保存科学の研究に基づいた最適な作品管理によって、都民の貴重な財産である作品・資料を、次世代に継承する。

### ○外部収蔵庫・施設の確保・運営

作品の大型化・デジタル化により、全作品の美術館内収蔵が困難であることから、外部施設を確保し、貴重な作品を次世代に継承する。

### ○ここに来れば世界中の写真集が見られる、世界一の図書室

写真・映像の専門図書室として、写真・映像に関するすべての資料が揃う、一般の人から専門家までが満足するワン・アンド・オンリーの図書室を目指す。

## 1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している3万8千点を超える（令和7年3月31日現在）写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展のほか、支援会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体の企画による誘致展など多種多様な企画を実施する。

## 2. 教育普及事業

講演会や、パブリックプログラム（写真ワークショップ、映像ワークショップ、鑑賞ワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、インクルーシブ・プログラム、ギャラリートーク、博物館実習生、インターンの受け入れ、美術館ボランティア事業などを実施する。

## 3. 作品資料収集・保存・管理

収集の基本方針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集し、保存、管理を行う。

## 4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

## 5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）を行う。

## 6. 作品・資料等に関する情報提供

収蔵作品および図書資料に関する情報の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施するとともに「Tokyo Museum Collection」によりオンラインで国内外に発信する。収蔵作品の特別閲覧を実施する。

## 7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

## 8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

## 9. 上映事業

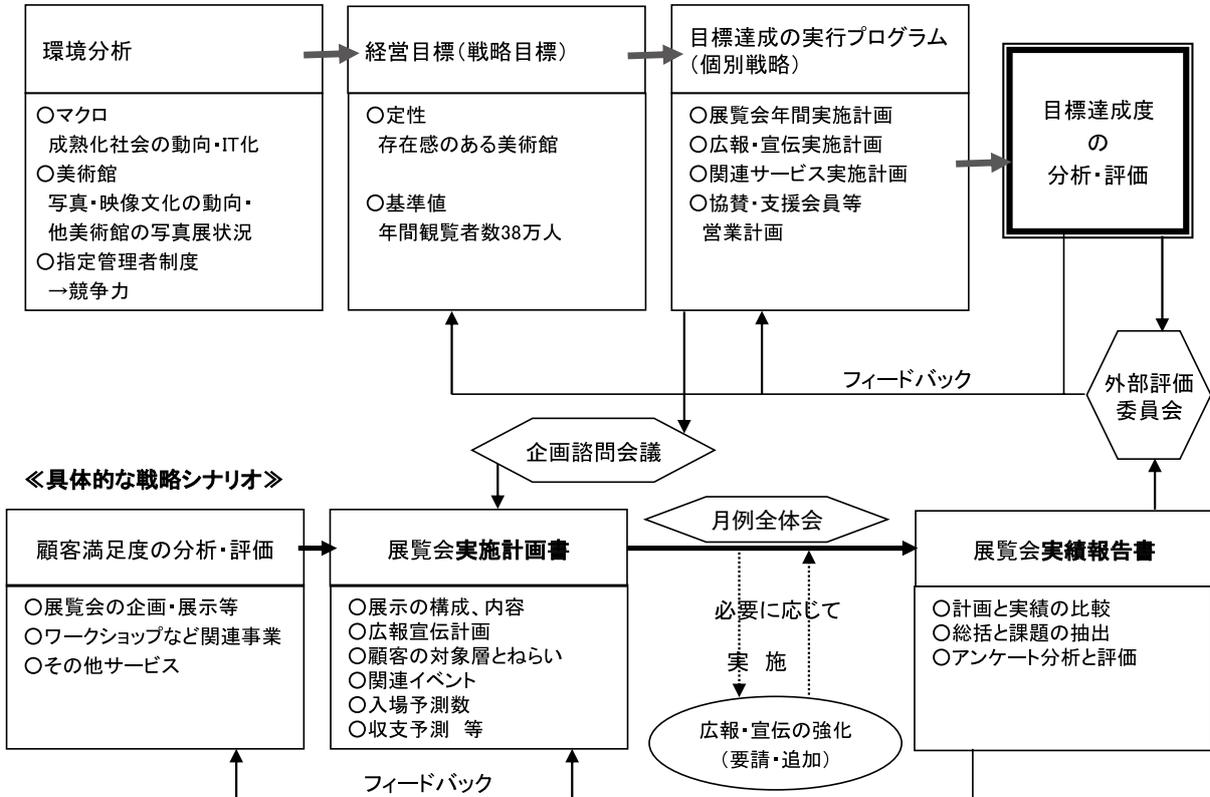
1階ホールで、写真美術館ならではの芸術性が高く、良質な映画の上映を行う。

## 10. 支援会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人支援会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開する。

# 東京都写真美術館の戦略的な運営システム

写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



## 《経営目標の設定》

**定性目標 「存在感のある」美術館運営**  
 とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。  
 ○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。  
 ○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

**年度別コンセプト**

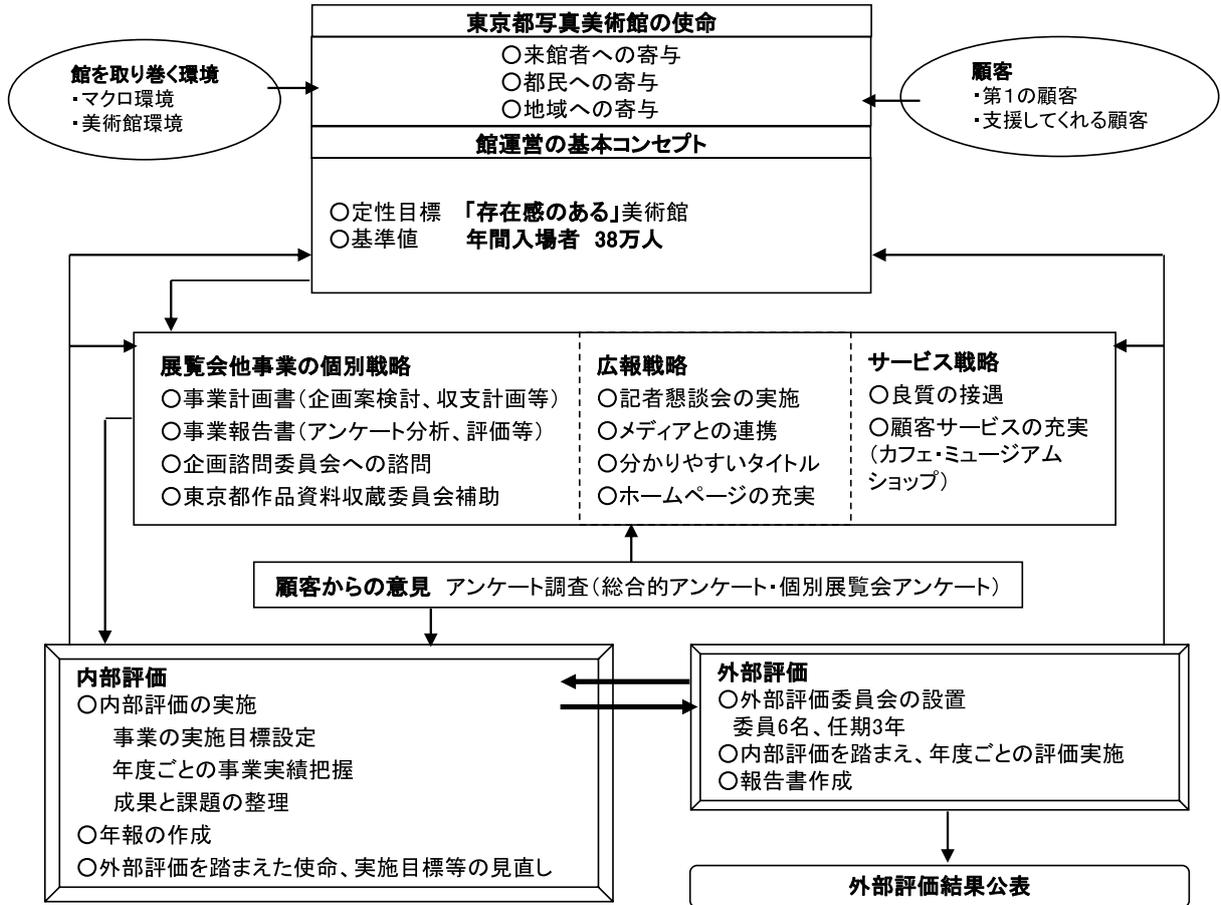
平成13年度 「静かな賑わい」	平成25年度 「楽しみ方いろいろ美術館」
平成14年度 「写真(映像)とは何かを伝える」	平成26年度 「未来を創造する美術館づくり」
平成15年度 「感動を与える」	平成27年度 「『写真美術館らしさ』とは何か？」
平成16年度 「明るく迎える美術館」	平成28年度 「恵比寿の顔となる美術館」
平成17年度 「信頼される美術館」	平成29年度 「また来たくなる美術館」
平成18年度 「判りやすく説明する美術館」	平成30年度 「たのしむ、まなぶ美術館」
平成19年度 「対話する美術館」	平成31年度 「にぎわいのある美術館づくり」
平成20年度 「顔が見える美術館」	令和2年度 「賑わいある美術館づくり」
平成21年度 「交流を広げ、つながりを強める美術館」	
平成22年度 「お客様のニーズにチャレンジ！」	
平成23年度 「広報マインドと実践」	
平成24年度 「発信、写美から世界へ」	

※令和3年度より年度別コンセプトを設定せず、「東京都写真美術館のミッション」を遂行する。

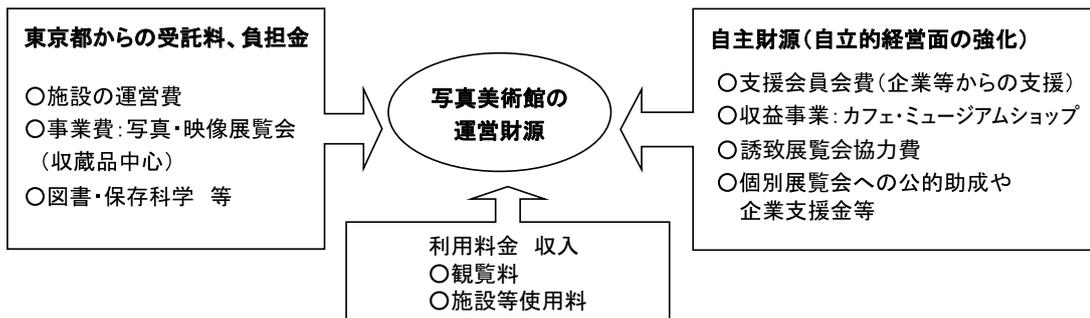
定量目標		年間入館者 38万人超
平成13年度	227,183人(前年度比 1.04倍)	平成27年度 38,497人(前年度比 0.16倍)
平成14年度	364,307人( " 1.6倍)	平成28年度 270,066人( " 7.01倍) ※H28.9.3~リニューアル・オープン
平成15年度	413,289人( " 1.1倍)	平成29年度 384,093人( " 1.42倍)
平成16年度	431,521人( " 1.04倍)	平成30年度 334,799人( " 0.87倍)
平成17年度	441,705人( " 1.02倍)	平成31年度 360,607人( " 1.08倍)
平成18年度	443,107人( " 1.01倍)	令和2年度 158,338人( " 0.44倍) ※R2.2.29~6.1臨時休館
平成19年度	365,871人( " 0.83倍)	令和3年度 209,004人( " 1.32倍) ※R3.4.25~5.31臨時休館
平成20年度	415,456人( " 1.14倍)	令和4年度 318,262人( " 1.52倍)
平成21年度	428,514人( " 1.03倍)	令和5年度 335,721人( " 1.05倍)
平成22年度	427,223人( " 0.99倍)	
平成23年度	429,657人( " 1.01倍)	
平成24年度	407,382人( " 0.95倍)	
平成25年度	404,256人( " 0.99倍)	
平成26年度	238,844人( " 0.59倍) ※H26.9.24~大規模改修のため休館。	

基準値38万人(参考目標値\*:22万8千人)  
 \*コロナ影響を勘案した目標数に設定  
**令和6年度 374,990人 (前年度比1.12倍)**

## 館運営と事業評価の概念



## 運営財源



わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、センター的役割を担う「存在感のある美術館」を目指し、質の高い展覧会の開催、作品資料の収集・管理と活用、都民の文化活動を支援する教育普及事業、専門性の高い図書室の運営等に取り組むとともに、誰でも美術館での時間を楽しんでいただけるようアクセシビリティの向上に努めた。

### 展覧会

- ・収蔵展4本、自主企画展5本、誘致展6本合わせて15本の展覧会を開催した。
- ・展覧会の理解を深めるためのアーティストトーク、学芸員によるギャラリートーク等関連イベントを実施した。

### 作品収集

- ・東京都による作品資料収蔵委員会の審議を経て、910点の作品を収集した。
- ・収蔵作品合計38,759点（令和7年3月31日現在）

### 作品管理

- ・既収集作品の著作権処理や作品データを整備し、東京都歴史文化財団が運営する「Tokyo Museum Collection (ToMuCo)」において作品資料情報を公開した。

### 教育普及事業

- ・スクールプログラムのほか視覚障害者とともに鑑賞するワークショップやオープンワークショップ、モノクロ銀塩プリントワークショップ、地域の施設との協働によるワークショップなどを実施し、多くの方が美術館を楽しみ、学ぶ機会を提供した。

#### ◆恵比寿映像祭

- ・「Docs（ドックス）ーこれはイメージですー」と題し、映像表現の原点である「ドキュメント／ドキュメンタリー」の再考を試みるべく、展示や上映、教育普及プログラム、シンポジウムやトークセッション、恵比寿ガーデンプレイス近辺での展示など、多様なプログラムを展開した。
- ・選出したアーティストに制作委嘱した映像作品を「新たな恵比寿映像祭」の成果として特別展示する「コミッション・プロジェクト」を実施し、恵比寿映像祭終了後も令和7年3月23日まで上映・展示した。

#### ◆図書室

- ・来館者が気軽に立ち寄ることができるよう、展覧会図書の照会やエフェメラ資料（チラシ、はがき等）の展示を充実させて集客を図った。

#### ◆支援会員向けイベント

- ・年度計画に沿って自主企画展や恵比寿映像祭の開催支援、収蔵作品の購入を支援した。
- ・支援会員向けイベントとして、収蔵展・自主企画展の「特別内覧会」に案内を行った。
- ・7月の理事会に合わせて令和元年以来となる「支援会員懇談会」を開催した。
- ・令和元年の開催以降控えてきた「企業交流会」を2月に再開した。

#### ◆広報活動

- ・ギャラリートーク方式のプレス内覧会、記者ブリーフィングを実施した。
- ・公式X（旧ツイッター）やInstagramによる展覧会情報やイベント告知など、SNSを使った広報や交通広告を積極的に活用し、多くの方への周知を図った。
- ・お正月特別開館時には、「TOPのお正月」を実施し、来館者へ新年を祝う賑やかなイベントを行った。
- ・子供の来館が見込める展覧会に合わせ、シールラリーを実施した。
- ・総合開館30周年を記念し、特設サイトの開設や来館者プレゼントを行った。

#### ◆アクセシビリティの向上

- ・ウェブサイトのアクセシビリティを向上するとともに、やさしい日本語版 館案内パンフレットや展覧会を鑑賞する際の「やさしい見どころガイド」を作成した。
- ・英語、中国語、韓国語といった言語や手話のできる受付スタッフを配置するとともに遠隔手話サービスを活用して案内を行った。
- ・手話による展覧会解説動画の公開や手話通訳付きギャラリートーク、ボランティアによる鑑賞サポートを行った。
- ・音声コードUni-Voice（ユニボイス）を活用したほか、視覚支援機器・聴覚支援機器を導入した。

## 企画諮問会議

座長 島 敦彦 国立国際美術館 館長  
副座長 榎木 野衣 多摩美術大学美術学部教授  
植草 学 信濃毎日新聞社文化部記者  
木ノ下智恵子 アートプロデューサー、  
大阪大学21世紀懐徳堂准教授  
高島 直之 武蔵野美術大学名誉教授  
都筑 正敏 豊田市民芸館 館長  
原 久子 大阪電気通信大学総合情報学部教授

開催日 令和7年3月26日(水)  
議 題 令和6年度実績及び令和7年度計画について(報告事項)  
審議事項 展覧会の考え方について  
新たな展覧会企画について

## 外部評価委員会

座長 杉田 敦 美術批評  
副座長 片岡 英子 ニューズウィーク日本版副編集長・フォト・  
ディレクター  
委員 倉石 信乃 明治大学大学院理工学研究科教授  
田口 友子 当館ボランティア  
富岡 良之 サッポロ不動産開発株式会社  
取締役執行役員 恵比寿事業本部長

### 第1回外部評価委員会

開催日 令和6年4月17日(水)  
議 題 令和5年度事業外部評価項目(事業報告)の聴取について

### 第2回外部評価委員会

開催日 令和6年5月13日(月)  
議 題 令和5年度事業評価について

## 記者ブリーフィング

開催日 令和7年2月13日(木)  
議 題 令和7年展覧会概要説明  
恵比寿映像祭コミッションプロジェクト vol.2  
ファイナリスト紹介

## 作品資料収蔵委員会

### 【収集部会】

委員長 安田 篤生 高知県立美術館 館長  
五十嵐 卓 帝京平成大学 教授  
植松 由佳 国立国際美術館 学芸課 学芸課長  
高橋しげみ 青森県立美術館 美術企画課学芸主幹  
畠中 実 NTTインターコミュニケーション・センター  
学芸課長 主任学芸員  
林 洋子 兵庫県立美術館 館長

### 【評価部会】

委員 浦野むつみ ANOMALYディレクター  
小川 貴之 PGI アシスタント・ディレクター  
木村絵理子 弘前れんが倉庫美術館 館長  
近藤 健一 森美術館 シニア・キュレーター  
増田 玲 東京国立近代美術館 写真室長  
松本 綾子 nap gallery ディレクター

開催日 令和7年1月23日(木)  
議 題 令和6年度新規収蔵作品の調査検討等

令和6（2024）年4月17日	第一回外部評価委員会
5月13日	第二回外部評価委員会
5月15日	総合開館以降の入館者 900万人達成
7月18日～8月30日	サマーナイトミュージアム2024開催 （木・金曜日は夜間開館を夜9時まで延長）
10月1日	都民の日 展覧会無料サービス
令和7（2025）年	総合開館30周年
1月2日・3日	お正月特別開館「TOPのお正月」実施
1月23日	作品資料収蔵委員会
3月26日	企画諮問会議

## 受賞

○金仁淑（恵比寿映像祭2024 コミッションプロジェクト展示作品他）  
令和6年度（第75回）芸術選奨文部科学新人賞 美術B部門受賞

○岩井俊雄（「いわいとしお×東京都写真美術館 光と動きの100かいたてのいえ」出品作家）  
第3回やなせたかし文化賞受賞